

乳幼児の家庭養育環境スクリーニングに関する研究

上田 礼子(東京都立医療技術短期大学)

1. はじめに

急速な都市化現象は子育てのmicro-systemとしての家庭にもさまざまな形で変化をもたらし、多様な育児が行われるようになってきている。このこと事態の是非を一般的に言うことはできないが、しかし、子供の発達の観点から必ずしも好ましくない家庭養育環境が出現してきていることも指摘されている。

本研究は可塑性に富む乳幼児期の発達にとってリスクの高い家庭養育環境をみつけ、支援に結びつけるためのスクリーニング用の質問項目を作成することを目的としている。

2. 対象と方法

対象は東京都の某保健相談所管内において1984年9月から1985年3月の期間内に健診該当者だった1歳6カ月児317名、3歳児317名であった。

方法は上記の期間内に1歳6カ月児健診及び3歳児健診の該当者にそれぞれ日本版家庭養育環境スクリーニング用質問紙(Home Screening Questionnaire 略称JHSQ)の記入を依頼し、回収されたJHSQの成績からリスク群(54名)と対照群(263名)を設定して家庭訪問を実施した(訪問実施人数1歳6カ月児62名、3歳児61名)。また、1歳6カ月時点における発達状態との関連及び同じ被検児の3歳児健診時の状態を検討した。

なお、資料の分析に際してはHOME得点を算出し、ハイリスク群(平均-1標準偏差以下の者)とそれ以外の2群に分け、AIC値を用い、JHSQの質問項目の選定と各質問項目の採点基準の設定を行った。(なお、赤池情報量規準AIC値は $AIC値 = -2 \log(\text{最大尤度}) + 2(\text{自由パラメーター数})$ で表され、目的変数に対する説明変数の情報量を算出し、モデルの良さを評価する統計量である、赤池他、1983)

3. 結果

(1) JHSQ項目の選定

AIC値は小さいものほど目的変数に対する情報量が多いとされるが、表1は1歳6カ月児を対象としたJHSQの中でAIC値が0以下のものを小さい順で示してある。すなわちHOMEハイリスク群を判

別するために有効な項目は17項目であった。同様に3歳児用では20項目であった。

(2) JHSQの簡易化とその妥当性

実用化を期して1歳6カ月児用及び3歳児用をそれぞれ10項目に減らし簡易化を検討した。その結果、1歳6カ月児ではJHSQによるリスク児の7%、3歳児では3%が偽陰性となることが明らかになった。

(3) 1歳6カ月時JHSQリスク児と発達との関係 JHSQリスク児54名には、それ以外の児と比較して発達に遅れの疑いのある者がより多く含まれていた(リスク群18.5%、対照群5.7%、 $P<0.01$)。

(4) 1歳6カ月時JHSQリスク児と3歳児健診発達相談との関係

1歳6カ月時に1次スクリーニング手段によるJHSQリスク児に該当しHOMEの対象者になったものは31名あり、そのうち3歳児健診発達相談を訪れているものは、現時点で8名あった。8名の中でJDDSTが正常であったものは3名あったが、一方発達は正常であっても養育上の問題を持つものが多くみられた。「ひねくれ」「好き嫌いが激しい」「パンツに便をする」など多様な訴えがあった。

表1 1歳6カ月児のAIC値

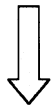
質問項目	AIC値
家庭内の植物の有無	-14.53
定期的な雑誌購入	-11.05
子供のある友達の有無	- 9.88
本を読んでやる回数	- 9.03
遊びに使用させるもの	- 8.16
子供の散歩などの頻度	- 5.30
積極的に遊ぶ頻度	- 4.45
子供用本の冊数	- 4.17
自分用本の冊数	- 3.54
健診の受診回数	- 3.15
子供に対する受けとめ方	- 2.08
食料品店などに連れて行く回数	- 1.90
子供があきた時の対応	- 1.53
話しかけた時期	- 0.83
子供用椅子など使用時間	- 0.74
家事中の話しかけ	- 0.36
新しいおもちゃの与え方	- 0.17

表2 3歳児のAIC値

質問項目	AIC値
父親と遊ぶ頻度	-12.01
本を読んでやる頻度	- 9.63
歌を教える	- 8.50
子供用本の冊数	- 8.50
自分用本の冊数	- 7.78
新しい靴立を試す	- 5.89
子供に教えたことのあるものの数	- 5.89
子供が作ったものの処理	- 5.31
おもちゃをしまう場所の有無	- 4.85
具体的な言葉掛け	- 4.38
子供のある友達の有無	- 4.38
外出の機会	- 3.12
おながかへつたときの対応	- 2.95
子供があきてきた時の対応	- 2.49
子供に選ばせているものの数	- 1.82
定期的な雑誌購入	- 0.94
屋内の植物の有無	- 0.85
家の中の整頓	- 0.73
子供を叩く回数	- 0.71
歌を歌ってやること	- 0.32

表3 1歳6カ月時JHSQハイリスク群の3歳児健診時発達相談内容

症例	1歳6カ月時		3歳時	
	JHSQ	HOME	JDDST	発達相談主訴
A	ハイリスク群	正常群	正常→異常	好き嫌いが激しい
B	ハイリスク群	ハイリスク群	正常	トイレをこわがる
C	ハイリスク群	正常群	正常	排尿を教えない
D	ハイリスク群	ハイリスク群	異常	サイレンをこわがる
E	ハイリスク群	ハイリスク群	正常	夜尿
F	ハイリスク群	ハイリスク群	異常	発達遅滞の疑い
G	ハイリスク群	正常群	正常	言葉が遅い
H	ハイリスク群	ハイリスク群	正常	パンツに便をする



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. はじめに

急速な都市化現象は子育ての micro-system としての家庭にもさまざまな形で変化をもたらし、多様な育児が行われるようになってきている。このこと事態の是非を一般的に言うことはできないが、しがし、子供の発達の観点から必ずしも好ましくない家庭養育環境が出現してきていることも指摘されている。

本研究は可塑性に富む乳幼児期の発達にとってリスクの高い家庭養育環境をみつけ、支援に結びつけるためのスクリーニング用の質問項目を作成することを目的としている。